

素直な心

会長 井上 博

数年に及んだコロナ禍で、子どもたちは友人と共に学び、遊ぶことに多くの制限がされ、大変な日々を過ごされたことと思います。このような厳しい状況の中で当協会の本作文コンクールに全国より多数の応募をいただきありがとうございます。

今回も素晴らしい作品が多数寄せられました。募集や推薦作品の選考にご協力いただいた地方会の皆様、当協会での選考にご協力いただいた委員の皆様に感謝申し上げます。

今回、私が作品を拝読して感じたことは、知的障害のある人と子どもたちの心の豊かさの共通性です。経営の神様といわれた松下幸之助さんが「人として最も大切なのは素直な心である」といわれたことと共通します。

私がこの仕事に就いて知的障害のある利用者の皆さんと出会ってから40年以上の年月が過ぎましたが、この間、最も魅了され続けてきたことは利用者の皆さんの純粋で透き通るような素直な心です。残念ながら若くしてお亡くなりになった利用者Sさんのことを思い出します。私がSさんの支援を担当した当初は、大変な行動が多かったのですが徐々に成長され、自分の食事よりも施設で飼育していた馬の餌やりを優先するまでに立派に自立されました。ある時、Sさんが拙宅を訪問する約束をしていた日に大嵐になってしまい、こんな悪天候の日にSさんが来るのはとても無理だろうと思っていましたが、もしかして…と外に迎えに出てみると、全身ずぶ濡れになって4km以上の長い距離を歩いて来たSさんがいました。手には雨に濡れて外箱がボロボロになったカルピスの瓶がありました。「なんでこんな日に」とたずねると「いつもお世話になっているからよ」との答えに、私はしばし絶句して涙が止まりませんでした。

知的障害のある人の美しく真っ直ぐな心は、私たちに多くの感動と気付きを与えてくれます。お金や地位や名誉が優先され戦争まで起こっている社会に、大切なものを思い起こすように教えてくれているように思います。

障害のある人や子どもたちが大切にされ健やかで平和な社会となるよう、未来につなぐこの取り組みが長く継続されることを期待いたします。